

## “今週の国際宇宙ステーション(ISS)”

★最初のISS構成要素打上げから1796日経過しました

★第7次長期滞在クルーのISS滞在は176日経過しました

### ★ISS動向

第7次長期滞在クルーは、帰還に向けての準備を行いました。

またふたりは、10月15日(水)に、宇宙へ人を送り出すことができる国に中国が加わったことを祝いました。



ISS内に集合した5人のクルー



(C) Energiat



右側が今回到着した  
ソユーズ宇宙船

7Sに搭乗したクルー

### ★第8次長期滞在クルー打上げ

第8次長期滞在クルーのフォールとカレリ両宇宙飛行士及び訪問クルーのデューク宇宙飛行士は、日本時間2003年10月18日(土)午後2時37分にカザフスタンのバイコヌール宇宙基地から打ち上げられ、同10月20日(月)午後4時16分に予定通りISSとドッキングしました。空気漏れ確認の後、ハッチは午後7時19分頃に開きクルーはISSに入りました。

第8次長期滞在クルーのふたりは、8日間で作業の引き継ぎを行います。ペドロ・デューク宇宙飛行士は、8日間でESAの実験を行います。

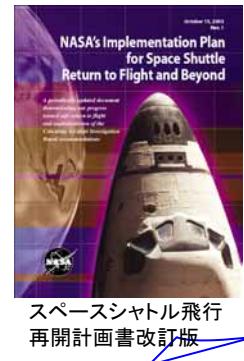
## “コロンビア事故調査報告”

NASAは、10月15日(水)にコロンビア号事故後の飛行再開に関する計画書「スペースシャトル飛行再開計画書(Implementation Plan for Space Shuttle Return to Flight and Beyond)」の改訂版を発行しました。改訂版ではコロンビア号事故調査委員会(CAIB)の考察事項(Observations)に関する対処が大幅に追加されています。

この文書によると、当面の打上げ目標は2004年9月12日～2004年10月10日で、事故後初飛行となるSTS-114(野口宇宙飛行士搭乗)ミッションの後に、STS-114で計画されていた内容のうち利用ミッションを補完するミッション(STS-121)を新たに追加する方針です。また、主な改善事項に関するこれまでの作業経過が記されています。

スペースシャトル飛行再開計画書の全文は以下をご覧ください。

[http://www.nasa.gov/pdf/52353main\\_RTF\\_REV1\\_101503.pdf](http://www.nasa.gov/pdf/52353main_RTF_REV1_101503.pdf) (PDF 19MB)



スペースシャトル飛行  
再開計画書改訂版

## “トピック”

### ★第18回世界宇宙飛行士会議終了

10月13日(月)から始まった世界宇宙飛行士会議は、17日(金)に大盛況の内に幕を閉じました。総勢15カ国から66人の宇宙飛行士が集まつたのは、日本初のことです。

期間中は各会場で人類が宇宙に挑戦する意義、有人宇宙開発の必要性などについて議論や意見交換が行われました。全国11箇所の会場で行われたコミュニティデー・イベントでは全国から約2万人の皆さんのが参加し、宇宙飛行士とふれあい、宇宙への夢と期待を育みました。

閉会に当たっては、大会実行委員会委員長である毛利宇宙飛行士から宣言文が発表されました。以下がその前文と宣言文です。

### 「前文」

人類は今まで既に400人余りが宇宙飛行を経験しました。世界中各国に帰還した飛行士の体験がそれぞれの国文化、科学に大きな影響を与え、繁栄に貢献しました。人類を育んだ成層圏を果敢に飛び出し、真空で漆黒の宇宙から美しく青く輝く地球を見つめた視点が新しい哲学を生み出しました。今回一同に会した世界中の宇宙飛行経験者の貴重な提言を融合して、地球人としての新たな知恵を集めました。

### 「第18回世界宇宙飛行士会議宣言」

それぞれの国で熟成された文化を、これからの宇宙探検に貢献させること。

宇宙から得られた経験を、世界中の文化として共有すること。

そして地球の自然環境と個々の文化を守り、人類の更なる可能性を生み出す。宇宙に飛び出す次世代に、その知恵を伝えることを私達の使命といたします。

この宣言文及び全宇宙飛行士のサインは、日本科学未来館に展示されます。

問い合わせ先: 宇宙航空研究開発機構 宇宙ステーション・きぼう広報・情報センター TEL: 029-868-3074

ISS・きぼうホームページ <http://iss.sfo.jaxa.jp/> Eメール kibo-koho@jaxa.jp

※「ISS・きぼう ウィークリーニュース」に掲載された記事を転載する場合、本 ウィークリーニュースから転載した旨を記述ください。



パネルディスカッション



宣言

